

A. 主な動き

1. 内政

▼大統領選出に向けた動き

- ・20日、与党連合AEL代表者は、大統領候補として13名の検討を開始した旨発言。
- ・22日、フィラト首相(自由民主党党首)は、大統領候補者が4名に絞られたとし、選挙は3月15日実施が望ましい旨発言。
- ・23日、AEL代表者は、同日現在大統領候補者としてアバビイ元保健相、バカル元モルドバ中央銀行副総裁両氏の名前が挙げられている旨公表、選挙日程審議は24日に延期した旨発言。
- ・24日、フィラト首相は、自由民主党、民主党及び「ドドン・グループ」は大統領候補としてバカル元モルドバ中央銀行副総裁を支持する旨発言。これに対し、同日、自由党は、本決定は性急であるとし議場を退席したため、議会での選挙日程審議は再度見送り。

2. 経済

▼財政支援

- ・22日、ネグレッツァ財務相は、モルドバが競争的農業計画(Competitive Agriculture Project)において、国際開発協会(IDA)から1,8000万ドルの融資を受ける予定であり、本プロジェクトは農地の生産性向上とともに、食物セキュリティの管理及び市場のポテンシャルを向上することに役立つ旨発言。

3. 沿ドニエストル

- ・21日、モスクワを訪問したシェフチューク「大統領」は、ユーラシア経済共同体に関する会議に出席し、モルドバと沿ドニエストルによるユーラシア共同体への統合参加は沿ドニエストル紛争解決を促進すると発言。
- ・22日、OSCE少数民族問題担当高等弁務官付ジン上級参事官は、沿ドニエストルを訪問し、イグナチエフ「外務次官」と会談、沿ドニエストル地域の刑務所の機能状況に関し協議。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)